

K.N 看護師

長崎県立大学シーボルト校

看護栄養学部 看護学科卒

大学4年間を通して看護師になるために必要な学習や技術演習・実習など様々な経験をしてきた。入学時は看護師という職業について病院の中で医師の指示に従い、患者の世話をする仕事くらいのイメージしか持っていなかった。しかし、講義や病院実習を通してただ患者の世話をするだけでなく、日々の関りを通して体調の変化を捉えたり、入院にかかるストレスを管理したりと医療職の視点から患者を見ていく必要のある仕事だと改めて理解できた。特に大学3年次の領域別実習では10月から2月までの約半年間病院実習にいき、患者を受け持ち実際に必要な看護を考え実践した。実際の現場における看護師の方の働き方を見るだけでなく、患者との関り方を学ぶ貴重な経験となった。大学4年次では就活や卒論、国試勉強など自己が主体となって実施していくことが多かった一方で、講義が少なく自由な時間が多く残りの大学生活を十分に楽しむことができた。

また、大学4年間を通して学業に加えて朝日新聞厚生文化事業団という奨学金団体が実施されている「ぴあ活動」にも尽力した。ぴあ活動とは社会的養護のもとで暮らす子どもたちやそれに関わる大人たちに向けて、同じく社会的養護を経験した大学生が進学に関する情報を様々な方法で発信する活動である。私はぴあ活動の中で「進学情報シェアチーム」というチームのリーダーを努め、北九州地域の児童養護施設や名古屋市の里親会・児童相談所などと共同でセミナーを実施したり、全国里親大会やファミリーホーム全国研究大会などでぴあ活動のPR活動を実施したりした。この活動を通して現在の社会的養護の現状について改めて学ぶことができ、子どもたちにどんなサポートが必要なのか考えるきっかけとなった。現在はOBという立場でぴあ活動には関わらせて頂いており、月に1・2回あるオンラインMTGに参加したり、半年に1回(今年は8/2・3)ある対面MTGにも参加したりしている。

大学卒業してからは、4月より病院で看護師として働いている。はじめは慣れない環境や仕事に戸惑うことも多く毎日緊張していた。最近では職場の先輩方とご飯に行ったりするなど打ち解けることができおり、緊張感も少しずつ解れてきた。また、業務内容も覚えてきた。まだまだ、勉強しないといけないことは多いが、日々成長できるように仕事と勉強を両立していこうと思う。しかし、休日はしっかりと休み体調管理も行っていこうと思う。

大学入学当初は4年間という時間を長いと思っていた。しかし、卒業した今ではあっという間に4年間という月日は流れていったと感じる。学業に専念することはもちろん大事だが、大学4年間ですることには限られているため「したい・やりたい」と感じたことはすぐに挑戦してみる事が大事だと思う。